

Ten plus Five  
住まない 10+5  
シェアハウス



住む人 住まない人 +αの人

3種類の人が関わるシェアハウス  
このシェアハウスは、『住む人』と『住まない人』と『+α』の3種類の人が関わるシェアハウスである。それぞれの人が、それぞれの『住む人』、『住まない人』、『+α』の役割を担い、互いに支え合っていく。

このシェアハウスは10人の『住む人』と5人の『住まない人』と『+α』により、個性豊かな暮らしの広がり、魅力的な人、モノ、コトとの出会いが期待出来るシェアハウスである。

3rd Placeとしてのシェアハウス

家や学校とは違う、学生にとっての第3の居場所。ここでは普段見られぬことのない、他学部や他大学の学生と知り合える。そこでは普段とは異なる経験が生まれて、自分自身を成長させるプラットフォームとしての側面も備えている。

新しい暮らしのカタチ

家族形態の変化と共に住み方は変化し続ける



発想、思考、環境のシェア

ここで出会い人は何らかのつながりを築けることになる。その人達と発想や思考、環境をシェアすることにより、創造力が刺激され、自分のモチベーションを高めることができる。また、ある程度深くその人と付き合えるので、しっかりとした人間関係を築くことも可能である。ここでは若い学生達にとって非常にクリエイティブな場所となり、イベントやカフェ、作品展、塾、講演会、etc 暮らし人によって、様々なアクティビティが自由に開催されることになるだろう。

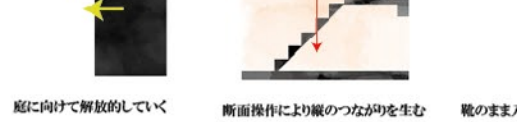
■ダイアグラム

かつては老舗の料理旅館として利用されていた空間を活かす。新たなライフスタイルに合った空間にする



■既存の部材

既存の残る部材は有効に Re・Design していく。



庭に向けて開放的に、前面条件により屋根のつなごうを生む、戦のまま入る上間共有部分を大きく取る、風を上下に流す

10+5の暮らし

1ひとつの屋根の下に収まらない15人の家族の様々な関係



**住む人**  
学生、学部、学校、趣味等が異なる大学生。個人のスペースとして部屋割りしている。意識の高い住まない人から刺激を受け、日々の勉強を「+α」の人に関わりながら学生時代を過ごす。

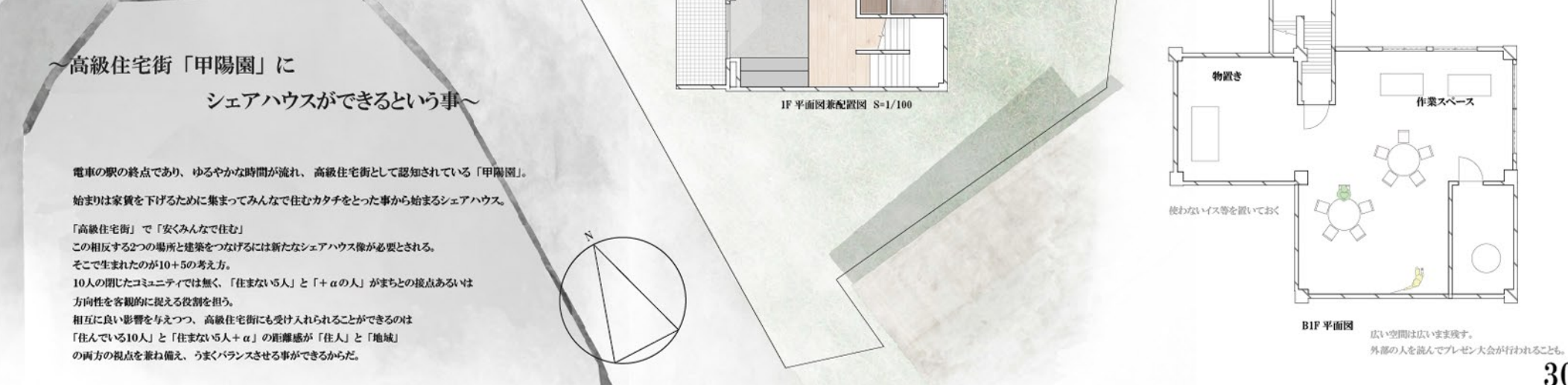
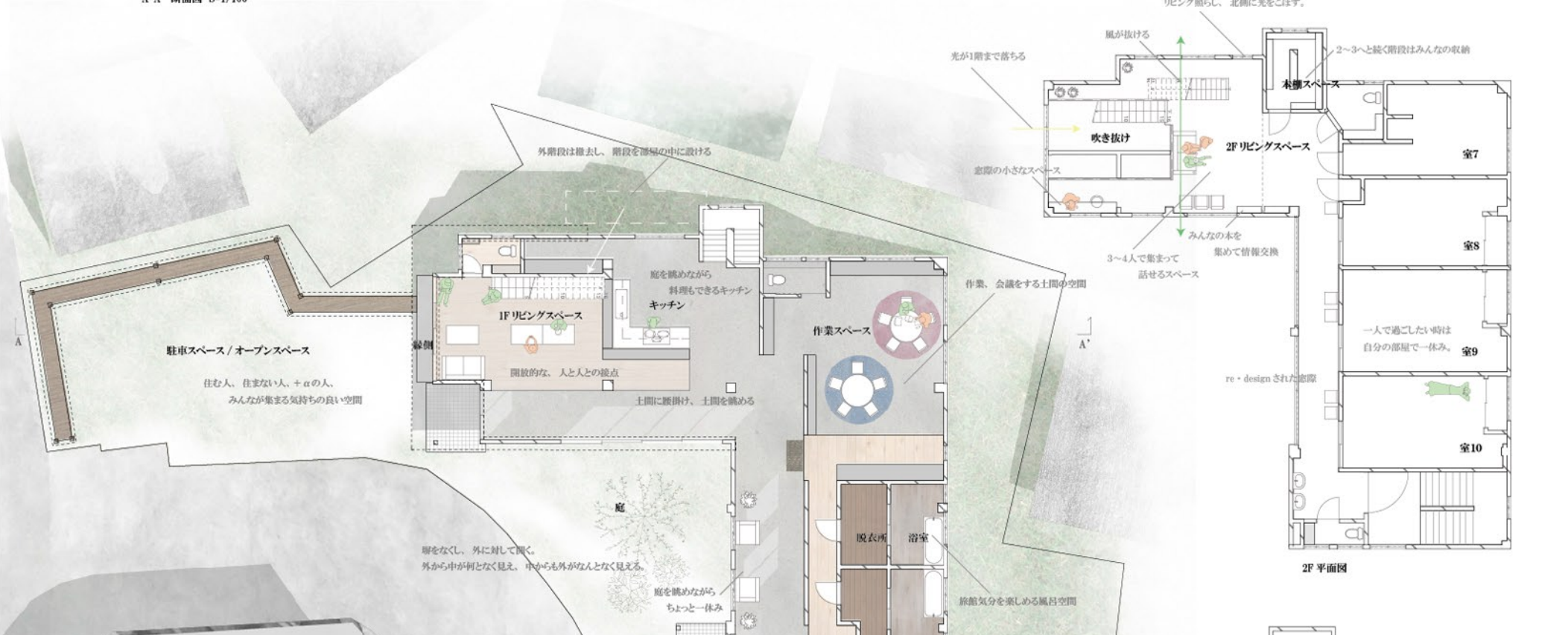
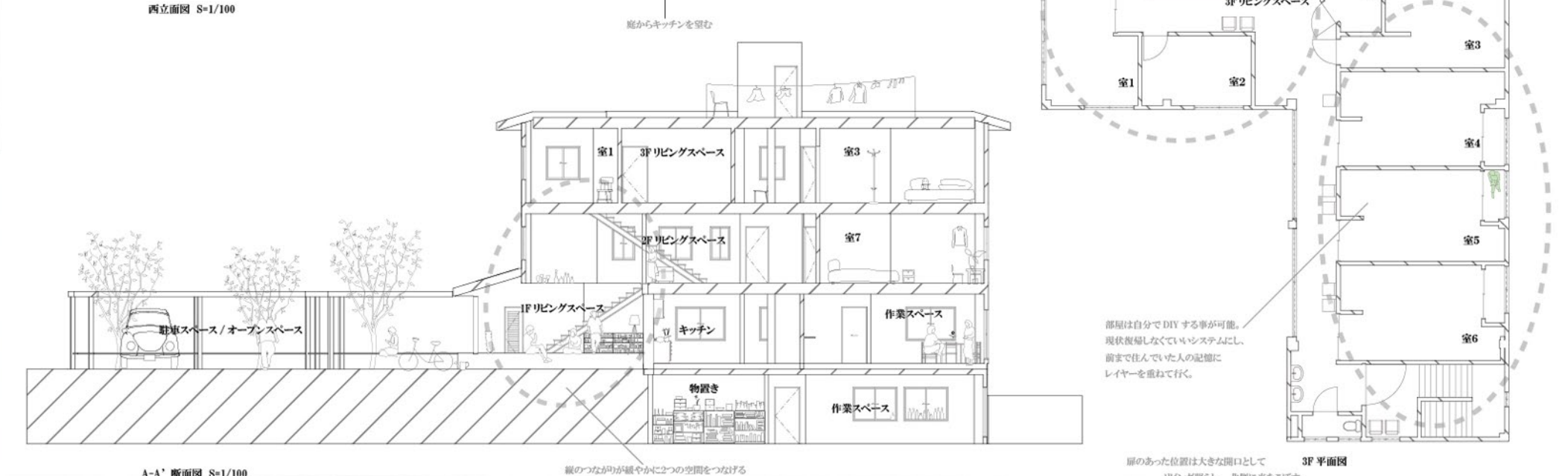
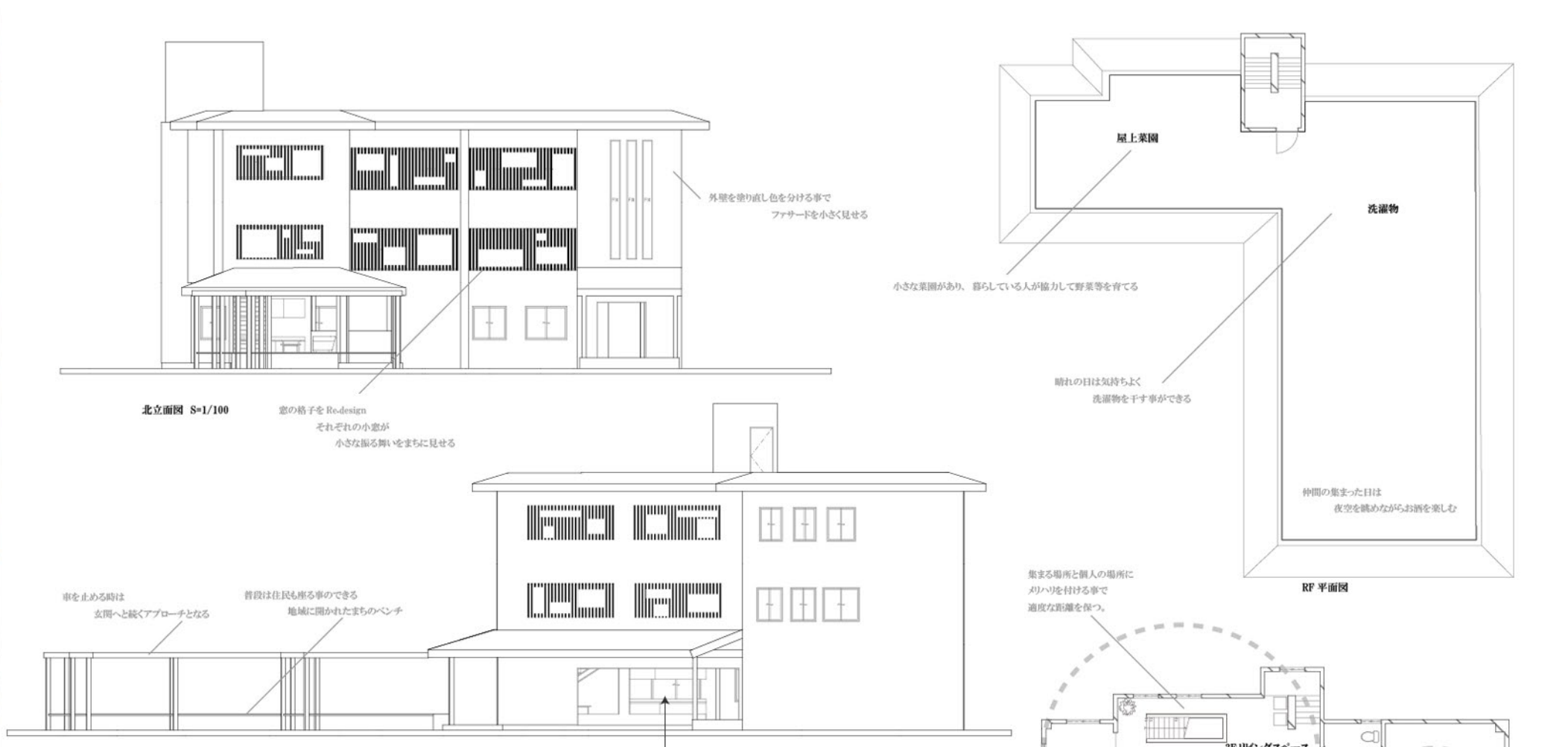
**住まない人**  
自由な働き方をしている社会人や大学生・大学院生など意識が高く、より豊かな生活がかけがえのないライフスタイルを求めている。個人のスペースとしてロッカーを1つ借りている。週に2-3日泊れる。

**+αの人**  
地域の人や「おもしろ人」や甲陽園でのイベントと仕事を進め、意識の高い学生達と関わりながら、まちとシェアハウスの「外」からシェアハウスに関わる。月に2-3日泊れる。

**2 料金**  
『住む人』と『住まない人』で家賃と共益費を負担し、シェアハウスを支える。

**3 DIY 許可の部屋**  
人回りの部屋は現状に固まっているシステムを採用し、部屋と共有部分を DIY できるようにする。

**循環していく暮らしの記憶**  
その場所でも留まらず、必要に応じて定期的にその部屋を DIY していく。新しい住居する人たちの DIY された様子を見てもまた住みこみやすくなる。



高級住宅街「甲陽園」にシェアハウスができるという事

電車の駅の終点であり、ゆるやかな時間が流れ、高級住宅街として認知されている「甲陽園」。始まりは家賃を下げるために集まってみんなで住むカタチをとった事から始まるシェアハウス。「高級住宅街」で「安くみんなで住む」この相反する2つの場所と建築をつなげるには新たなシェアハウス像が必要とされる。そこで生まれたのが10+5の考え方。10人の間にコミュニティではなく、「住まない人」と「+αの人」がまちの拠点あるいは方向性を各層に異なる役割を担う。相互に良い影響を与えつつ、高級住宅街にも受け入れられることができるのは「住む人10人」と「住まない人+α」の相乗効果が「住人」と「地域」の両方の視点を兼ね備え、うまくバランスさせる事ができるからだ。